

国際判例紹介 (7)

東部グリーンランド事件 (デンマーク対ノルウェー) (1933年4月5日常設国際司法裁判所判決)

佐々木 浩子

(慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員 (訪問))

本事件は、デンマークとノルウェーとの間で東部グリーンランドの法的地位が争われた事件である。北極海と大西洋との間に所在するグリーンランドについて、デンマークはそのすべてに対する主権を主張してきたが、1931年にノルウェーが東部グリーンランドを先占する宣言を行った。そのため、デンマークがノルウェーによる宣言は違法かつ無効であると主張して、常設国際司法裁判所規程36条2項の選択条項に従い、常設国際司法裁判所に提訴したものである。

図1 デンマーク、ノルウェー、グリーンランドの位置関係



(GEOLOGICAL SURVEY OF DENMARK AND GREENLAND ウェブサイトより at <http://www.geus.dk/publications/review-greenland-96/gsb9-16.gif>)

1 事実概要

グリーンランドは900年ごろに発見された島である。その100年後に入植がなされ、島の西海岸南端の入植地は13世紀にはノルウェーの属領となったが、1500年以前に消滅した。その後、18世紀には西海岸でノルウェー人による入植が行われた。この間、デンマークとノルウェーは同君連合を形成していた(1380年から1814年まで)。1813年、ライプチヒの戦いでデンマークはスウェーデンに敗れ、1814年に締結したキール平和条約によりグリーンランドなどを除くノルウェーをスウェーデンに割譲した(4条)。

19世紀には複数のデンマーク探検隊がグリーンランドの東海岸を探検し、20世紀初頭までにはグリーンランドの海岸は完全に探検された。1854年から1886年の間には、デンマーク政府に対してグリーンランド東海岸での漁業区設置や電話線敷設等のために複数のコンセッション付与の申請がなされた。1894年には初めて東海岸にデンマーク人入植地が設けられ、これはスウェーデン、ノルウェー、その他の国々に通知された。

その後、デンマークは1905年にグリーンランドの領海の範囲を決める勅令を、1908年にグリーンランドの行政に関する法律を發布した。1916年には米国との間でアンティル諸島を米国に割譲する条約を締結し、その際に「デンマークがグリーンランド全体に政治的及び経済的利益を拡大することに反対しない」旨の宣言を米国から得た。

1919年7月12日、デンマークは同国がスピッツベルゲン(スヴァールバル諸島を構成する島)に特別な関心を抱いておらず同諸島に対するノルウェーの請求に反対しないこと、デンマークが過去数年にわたりグリーンランド全体に対する同国の主権を関係各国に承認してもらうことに関心を有してきたこと、ノルウェー政府がこの問題の解決に異議を唱えないことを期待することを述べた。同年7月22日、ノルウェーのイーレン外相は「ノルウェー政府はこの問題の解決に異議を唱えるつもりはない」との声明を出した(イーレン宣言)。

1920年、デンマーク政府は英国、フランス、イタリア、日本に対して、グリーンランド全体に対する同国の主権を承認するよう求め、満足いく